

I 岐阜市の概況

■位置及びひろがり

区分	位置及び広ぼう
面積	203.60km ²
人口集中地区面積	62.62km ²
広ぼう	東西 18.8km、南北 21.3km
極東	東経 136度53分 大洞(芥見)
極西	東経 136度40分 外山(網代)
極南	北緯 35度21分 柳津町高桑(柳津)
極北	北緯 35度32分 上雛倉(網代)
最高の	海拔417.9m(百々ヶ峰)
最長の河川	長良川 166km 市内延長 23.4km

出典:岐阜市統計書

■気候

各年1月～12月

年度	気温(°C)			湿度(%)	降水量(mm)	風速(m/s)		日照時間(h)
	平均	最高	最低	平均	総量	平均	最大	
平成28 (2016)	16.9	38.5	-5.0	65	1988.0	2.6	12.2	2134.5
平成29 (2017)	15.9	36.4	-3.1	65	1864.0	2.6	15.2	2177.7
平成30 (2018)	16.9	39.6	-3.7	64	2087.0	2.7	21.4	2277.8
令和元 (2019)	17.0	38.5	-2.0	63	1798.0	2.6	13.3	2195.9
令和2 (2020)	17.0	39.2	-2.9	65	2088.5	2.6	13.8	2172.7
令和3 (2021)	16.8	39.0	-3.2	65	2249.5	2.6	12.7	2091.6
令和4 (2022)	16.7	38.4	-3.3	65	1978.5	2.5	12.5	2180.3

出典:岐阜地方気象台

■人口・世帯数

年度末現在

年度	人口	男	女	世帯数
平成28 (2016)	412,254人	197,107人	215,147人	177,102世帯
平成29 (2017)	410,297人	196,115人	214,182人	178,392世帯
平成30 (2018)	408,970人	195,402人	213,568人	179,872世帯
令和元 (2019)	408,109人	195,015人	213,094人	181,716世帯
令和2 (2020)	406,407人	194,281人	212,126人	183,288世帯
令和3 (2021)	402,965人	192,678人	210,287人	183,506世帯
令和4 (2022)	401,294人	191,891人	209,403人	185,365世帯

■土地利用

令和3年10月1日現在

農用地	森林	原野	水面・河川・水路	道路	宅地	その他	総計
3,930ha	6,020ha	22ha	1,502ha	2,064ha	※	※	13,538ha

※令和3年より「宅地」の一部及び「その他」が非公開となったため、総計に「宅地」・「その他」を含まない。

出典:岐阜市統計書

■産業


令和2年国勢調査

第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数
2,854人	44,827人	140,487人	194,500人

※総数には、「分類不能の産業」の6,332人を含む。

出典:岐阜市統計書

■岐阜市のシンボル

市の木	市の花	備考
 <p>つぶらじい</p>	 <p>サルビア</p>	<p>緑のまちづくり委員会が、候補の木、花を7種類ずつ選定し、その中から市の木、市の花にふさわしいものを市民から公募しました。その応募数に基づき、同委員会が「つぶらじい」「サルビア」を選定しました。(昭和47年10月22日制定)</p>

■地形・地質等

地形	<ul style="list-style-type: none"> 市内は、美濃山地と濃尾平野の境に位置しており、市域の東部から北部には美濃山地の南縁部にあたる丘陵及び低山となり、南部から西部は濃尾平野の北縁部にあたる平野(平野、段丘、扇状地)よりなる。 山地は、標高417.9mの百々ヶ峰を最高峰として、岐阜市北部から各務原市にかけて西北西～東南東へ低山であるが険しい山地が連なっている。また、南東部の平野部の中にも、小規模な残丘状の山体が分布する。 平野部は、長良川、木曾川などが美濃山地を侵食し、運搬してきた砂礫が堆積して形成されたものである。 金華山付近で長良川が美濃山地から平野部へ出る。ここには、金華山付近を扇頂とする扇状地が形成されている。旧市街地はこの扇状地の上にあるため、旧市街地よりも長良川の方が高い位置を流れる「天井川」となっている。扇状地よりも下流側は氾濫原※となり、水田が広く分布する地域となっているが、都市化がみられる。
地質	<ul style="list-style-type: none"> 山地は、美濃帯堆積岩類のうち、古生代ペルム紀～中生代ジュラ紀までに海洋に堆積した砂岩や泥岩、チャートから形成されている。砂岩、泥岩、チャートは主に東西方向につながるように分布し、南北方向にはこれらの岩石が繰り返すように分布している。金華山をはじめ、百々ヶ峰など市内の山々が低山地域でありながら急峻な地形となっているのは、侵食されにくいチャートできているためである。 平野部の台地や低地は、一部長良川の扇状地などでは、新生代第四紀更新世(約260万年前)の砂礫層を含むが、主に新生代四紀完新世(約1万2千年前)の砂礫層からなっている。
活断層	<ul style="list-style-type: none"> 明治24年(1891年)に壊滅的な被害をもたらした濃尾地震(M8.0)を起こした根尾谷断層帯と梅原断層帯は、岐阜市の近傍に分布する。 根尾谷断層は、約40kmの活断層であり、市内ではその南東端が北部の雛倉から三田洞にかけて延びている。 梅原断層は、約27kmの活断層であり、市内では北部の北郷・太郎丸を経て、関市千疋に至る約5kmの間を通っている。 三田洞断層は彦坂付近から南東へ、三田洞から百々ヶ峰の稜線付近を通って長良川を横切り、芥見まで達する約13kmの左横ずれ断層である。 木知原断層は、本巣市木知原から雛倉へほぼ東北東-西南西に延びる約4kmの右横ずれ断層である。

※ 河川の増水時に、水があふれて一時的に水没する部分のこと。

出典:岐阜市自然環境基礎調査